

# 六、笹の先覚者

## 大阿闍梨円詮行狀記

### 成願密寺法印円詮大和尚行壽記

上総州周集郡秋元庄中嶋村息災山成願○人皇百十三代  
靈元皇帝寬文十一辛亥密寺東光院第三十四世祖法ノ諱ハ  
円詮字運智 世姓ハ同國望陀郡群赤庄龜山郷篠村鈴木氏  
佐治兵衛主殿尉季男母者夷隅郡伊宝庄大田代村菅野治郎  
左衛門娘心内幽智ニテ餘人秀タリ曾テ深ク佛神ヲ默禱シ  
不レ幾ナラ 迺チ覺レ身至テ寬文十一年辛亥一稔果産ス一  
男ヲ父母喜テ謂ラク常ノ子ニ異ナリ是レ即チ佛神ノ之所レ  
賜焉生レテ三四歳ニテ能ク言敏悟卓絶タリ髮齡求ム出家  
ヲ特估視ニ其至意ヲ不ニ敢拒一レ之延宝四丙辰歳甫六歳  
ニテ父奨ニテ詣シテ同郡野中村円藏密寺ニ親タリ就良  
祐闍梨雜髮ス受ニ惠慈戒一尋ネテ習フ十八○卯兩部丈法  
護摩秘軌一師十二歳天和二壬戌年二月梅日慈父主殿尉早  
天ス彌真応淨春禪ニ定門ト入ニ漫茶羅一沐シ兩部灌頂一  
得ニ阿闍梨位一后積レ年師二十九歳元録十二己卯年十二

月初朔日字行營房良祐和尚安然坐化ス此時自ニ本寺岩田  
寺十九世法印源晴字ハ池鏡房一蒙レ命院務什宝不レ残受ニ  
附屬ヲ暫ク住ニ円藏寺ニ深ク志ニ學事教一(山家ノコト  
也)緇林ノ領袖頭○師三十六歳丙戌天一夏愆陽ス草木焦  
枯元録十六癸未天旱齊那中諸壇(一字不明)諸ニ折粵一  
(アマヒコ)密ニ藏ノ棟梁ナリ也与弥郷邑於群仁緇素舉  
隨喜且同郡兼帶泉滝持明両寺是即師高德也 初於自坊三  
ケ日修練ス水天供無驗篠村惣廟山神社捧ニ法味一折誓ス  
少選山頂有ニ黒雲一形如ニ手尾一衆人属ス第四日忽飛  
來襲ニ襲諸方ニ驟雨傾ク盆ヲ郡人大喜仰師三十一歳元録  
十四辛己歳秋月良辰移ニ洛東一而謁ニ積智教院一化主有  
鑲僧正寓ニ西峰寮一聞ニ根嶺之立義一稟味讚研寢食俱忌  
復就智山第一座六波羅密寺法印字慈運房隆譽聞梨盡ニ報  
恩院淵源一帰國寺務不レ空師四十歳宝永七庚寅六月二十  
一日悲母薨号ニ仁測貞義法尼師ノ俗兄鈴木武右エ門主殿  
尉共ニ悲母病痛者養ス乘寓深艱 遂円藏寺住職歴二十五  
箇年星霜一以後師四十三歳正徳三癸己歳十一月下旬良辰  
同郡岩田寺江轉昇領ニ掌本寺職一千二至心一龜山郷大繁

寺院在家真言宗也。下民善惡可レ帰二人一我不レ穩当郷又然也。与云テ為二四生衆群利益一自リ初行護摩練行阿遮羅明王ノ秘法長日修レ之漸積レ功入我々入互融觀能所ノ行美忌融ヲ出塵赴ニ暇時一心寐不レ厭ハ佛祖江投ニ身命一護ニ戒律一由鉢無レ顧タ「浮囊ヲ無レ涌ス」精進勇猛也。

師四十六歲正徳六丙申天六月大旱於ニ鎮字富士山一祈雪法驗ニ勝教一師四十八歲享保三戊戌天十月八日第四之弟子有專僧都奄然婦寂字智春俗姓秋(二字不明)畑奥米村長倉高橋氏 師五十二歲享保七壬寅第五之弟子円周四度別行之秘法授与畢 遂岩田寺々務超過十箇年誠衆群渴仰無比類乎哉 同壬寅歲成願寺主席連隆公退隱嗣補被仰附并応ニ惣門未海衆之請一難ニ固辞一質ニ彼後席一每展ニ論勉一教講諸徒所化帰敬佛祖無異師素懷從レ元好ニ静慮地一永塞ニ本山一海衆恐レ貴唯進退間以三箇年成レ限同九甲辰年白ニ退隱專門未高席智虎海衆不レ肯レ之乃チ切ニ遁ニ世務一偏告ニ自利々他興法懇情一於レ是乃チ免レ之重以ニ久原寺元応和尚一令ニ後席嗣補ニ爰ニ多年ノ願ヒ漸ク色レ山キヲ同國龜山郷奥笹村陵隣巖々タル有ニ大日如来ノ精舎一字一尊容所レ慮スル 吳地也也ニ聘シテ栖隱ス捨ニ離雜務一ヲ心休唯ニ利円満ヲスル耳甲タリ此閑境形之勝地ハ聚洛東関ヲ山勢髣乎哉 師常誓是所謂衆生無辺誓願度也化レ物不レ輕在レ慈從ニ初行護摩一御遷

化迫御修法無レ怠隱住以降法愛悃篤ニテ近クハ房総下総州三箇國遠武相二箇國出家緇裕人素貴賤群集ス寔毘々トシテ如レ雲往來譬蟻墜如レ聘出家者密学写瓶相傳復教相者顯密奧儀ヲ示ス何三地(弘法大師ノ下也)薩埵異哉素(俗人ノコト)類数万之男女江授ニ与血脉一病惱苦厄祈願与ニ御符一皆無レ不レ癒慈心厚恤一切衆生(情非情ヲ指ス)恒沙モ猶ヲ微少也視ニ友情一如ニ一子一愛事滄海還而(慈悲心ノ深勝ニ相對メ云)浅劣乎哉見人驚レ目開者時レ耳嗚呼佛祖ノ再誕權化タリ 師五十五歲享保十乙巳天七月十五日第三弟子觀音寺日照示寂ス字証船産姓笹村相川氏 師六十一歲享保十六辛亥天十二月十二日嫡弟明覺院円諱沙弥安然坐化ス字運識俗姓利根村本吉氏貞享元

甲子天誕生ス於野中村円藏寺雅髮尋四度加行入壇散華累宝永七庚寅天往宝藏寺行年二十八歲明覺院殿堂庫裏ニ階再興成就律儀精嚴平常斷穀誓 師六十五歲享保二十乙卯天正月二十有二日第二弟子藏福寺性詮化寂字亮識俗姓草川原榎本氏師七十歲元文五庚申天八月二十又四日第六弟子前福藏寺円樹帰寂字永隆温異縁退院俗姓柳瀬村鈴木氏即於ニ産家示寂故墓所林幸田寺有二境内一師八十歲寶延三庚午天九月二十又一日第五弟子蒲生山法流第四世円周安祥坐化字英林於ニ都智積教院林学寮一逝ス生齡四十二歲俗姓周集郡中嶋村堀之内渡刀氏先祖属安州東城幕府食二邑安州郡里一落城以後居ヲ移ス初歲聡角前岩田寺法印源



晴同門徒林幸田寺休穆詣此師本成寄弟子與晴師享保十四  
己丙天十二月十五日安然遷化此年二十一歲初而幸田寺嗣  
補自岩田寺法印下庇被仰附即住幸田寺其後移二蒲生山一  
延享元年甲子天行年三十六歲 師重二化縁一常安養淨土往  
生求願自二少時一弥陀三尊々容求証深俗爲二 終佛與生  
齡八十二歲二 而宝曆二歲 壬申十月初八月有二少僧一豫告  
孫弟明覺院円乳光明寺融全等異口同音誦二經卷一后有二  
遺戒一從夫就二大和尚一 円乳融全等前後ニ給仕ス日日御  
氣色衰テ粥食漸ク半減シ正サニ至テ二十五日早一天ニ日光  
赫々タリ弥陀三尊來迎顯現ス即息慈等是ヲ拝シ思惟メ日  
ク三密加持薰力朗然タリ 與円乳融全等物語ス此日從二市  
原郡平藏ノ郷一 虽下信男信女十一人干レ受二三掃五戒一  
遠境処信來上スト 師之可レ不ニ生命久シ 來孫弟円乳告ニ  
彼受者ニ被二聞召一 不レ得ニ止事一 土茶鉢碗水入即着ニ  
シ袈裟衣ヲ授與之テ畢キ 彼人彼人等可レ令ニ客寮江止宿一  
由被ニ仰附一 俱虽レ然如レ斯察二 變事一 隣家一下午ニ止  
宿約諾一 ○師不レ移ニ時刻一 俄顏容替告ニ 息慈事等一 三  
衣ヲ着シ 調ニ 威儀跌坐妙道奄東朝ニ 御手カラ 握レ管ヲ御  
辞世成シ玉フ ○八十二歳一 夢裏 水光如レ影又如レ電  
他境現生又何異ラン 阿字幻生來拓レカン 門ヲ 如是演即  
超ニ 凡身一 聖者風智仰中ニ 初ニ 句者大和尚自書ス 次ニ 句  
者稍病惱重不レ能レ書側和尚口傳而円乳書レスト 之ニ云  
次ニ 袖中結誦ニ 破地獄之印明一 後理趣經大和尚與二 円

乳及融全等一 異口同音誦誦ス 十七段ノ終リ迄ハ大和尚モ  
誦ミツ 到テ合殺段ニ 御弁舌不ニ 廻道一 息慈寺合殺止音ニ  
大和尚極秘口唯笈相持テヨ 演玉フ 息慈寺率爾難レ 晝唯 アイタイ  
ト 計リ 答受シ玉フ也 同日申ノ刻ノニ 晡時ノ 安祥坐化  
ス 法臘七十又七歳 依之遺第及俗縁筆佛等不レ勝ニ 哀慕一  
手描ニ 其像一 事如ニ 生時一 人皆歎羨ス 復平藏郷之受者  
等登ニ 妙道奄奉レ 瞻ニ 禮遺骸一 帰依渴仰スハ云 尚奉一  
全身一

翌十六日令遠近貴賤群集瞻ニ 禮尊骸一 奉レ 拜容色無變  
莞爾如笑臨終印父不ニ 破壞一 無レ 所レ 比西天世尊涅槃加レ  
之哉 翌十七日帰ニ 繁裡一 (蔓草ノ名也) 掩レ之 御葬送  
日中日暎兩刻ノ間 (午ノ刻未ノ刻ノ間) 此時法令影中日  
光南西方ヨリ 始赫タリ 彌陀觀音勢至三尊來迎顯現美笑  
事貴賤群集華奉レ 拜レ之 実五色光明從レ 口出テ 照ニ 二十万  
五趣類一 欲意眼開罪清尋佛來中 詣佛所上 粧也而已  
復在世ノ 日財宝如ニ 塵滴一 聚世財ハ 民困勢ヨリ 出ル所也  
ト 言キ 無益不レ可レ 費思惟大般若經六百軸若干投ニ 金銀一  
求購レ之 每年猛春二十又一日當領爲ニ 諸人快樂五穀豐饒一  
轉読即和尚厚志其餘財宝明覺院円藏寺兩窟修科損讓ス 且  
佛像并疏鈔世ノ 器具等其品大多皆干法眷中 ○ ○ 畢 ○ 誦經  
終和尚御遺訓笈箱持演 以ニ 降歳月易狙旨明和五戌子天  
十月十五日一 孫弟光明全師日ク 終焉素意唯浮言ト 思ヒア  
イアイト 計リ 答レ之 今思惟意近則滯ニ 常習一 義微則玄旨

難レ曉十七箇年疑水解爰即得証拠 高祖大師(弘法大師)  
 演日 負テ笈ヲ不レ遠トセ千里一援ニ大法ニ云即身〇証  
 根機ニ三密樹秘軌傳授セヨト 秘口遺告乎哉紙墨ニ書クモ  
 有レ恐云 師有二異名一諱ハ最初ハ要信云復円璟トモ  
 云後ハ円詮ト改也又字初ハ法雲トモニ云後ハ運智ト改ル也  
 寛政四壬子歳十月十五日記之畢 智禅誌

円詮略記

一六七一年(寛文一一年)

龜山郷篠村(笹村) 鈴木佐治兵衛主殿尉季男と  
 して生まれる。

一六七六年(延宝四年) 六才のとき円蔵寺で雜髮得度

一六九九年(元禄二年) 一二月一日円蔵寺良祐和尚  
 入寂したため同寺の住職となる。泉滝寺、持明院

住職兼務。

一七二三年(正徳三年) 一月岩田寺へ昇進、第二一

世住職となる(四三才)

一七二八年(享保三年) 一〇月八日第四弟子有專僧都

智春入寂す。

一七二二年(享保七年) 第五弟子円周四度加行秘法授

与

一七二三年(享保八年) 成願寺へ昇進、第三四世住職

となる。

一七二四年(享保九年) 一〇二三日笹妙道庵に栖隱す

一七二五年(享保一〇年) 七月一五日第三弟子観音寺

日照入寂す

一七三一年(享保一六年) 一二月二二日嫡弟明覚院円

諱安然坐化す

一七三五年(享保二〇年) 一月二二日第二弟子蔵福寺

性詮入寂す

一七四〇年(元文五年) 八月二四日第六弟子前福蔵寺

円樹入寂す

一七五〇年(寛延三年) 九月二一日第五弟子泉滝寺法

流第四世円周英林房京都智積院林学寮で逝去(四

二才)

一七五二年(宝暦二年) 一〇月一五日安祥坐化す、寿

八二才、法臘七七年

智 禅

岩田寺(松丘) 記録

岩田寺第三十一世法印智禅字亥明日予先祖者往古相州

鎌倉嘱武功全盛累代忠勤スト云云其後上総国望陀郡畔葺

庄龜山郷笹村ニ移リ代々鶴岡氏ト申テ元祖之根元不遺亡

由申伝へ候中興天正年中御国主里見安房守殿義頼公ニ随



給テ賜小録兄弟ニテ相勸候得共主君滅亡之砌兄者下総国  
佐倉城エ参リ弟鶴岡彌左エ門者身分空ク相成百姓相助居  
候千今子々孫々相続テヨリ彌左エ門第七代苗裔鶴岡嶋右  
エ門ト申候三男ニテ生年十一歳之時父者四十四歳母者藤  
林村加藤吉左エ門娘キヨ四十歳之時也産家離脱テ而干時  
安永三甲午年六月九日壇那院明覚院法印典阿純○房御年  
三十四歳一向之依勸奨出家ス師主者柳瀬村幸田寺法印融  
全定房御年五十二歳即戒師岩田寺法流第二十六世法印東  
阿大和尚智周御年五十五歳安永五丙申年三月二十三日  
天社日ニテ十八道加行開白ス礼拝行十八道金剛界胎藏界  
次第ニ修業終テ少々隙日之間不動法修之同十月十八日護  
摩修行開白ス二夜三日ニテ同二十日ニ初行護摩二十一箇  
座修業之終ル安永八巳亥天九月十六日月曜於岩田寺道場  
開東阿大和尚願行流庭儀式之灌頂壇当日從弟子ノ役勤ル  
故予メ九月十三日伝法職位授り畢又安永九庚子年十一  
月二十六日行年十七歳ニテ岩田寺二十八世法印尊阿依嚴  
命安場村慈眼山觀音寺普門院入院ス此寺本尊西国三十三  
ヶ所住古本村城主東平安芸守殿御建立寺也ト云云古老  
伝説也天明辛丑年十一月二十七日岩田寺二十八世法印  
尊阿依嚴命片野村無量山吉祥寺西門院エ入院ス本尊阿弥  
陀如来葉師如来葉師如来開基不分明天明四甲辰年九  
月五日発足ニテ和州豊山エ交衆又同月十八日山着又同二  
十一日御目見小池房中興第三十世權僧正虚明御一藤歡喜

院法印卓善字也能囑地蔵院法印存詮字也速遂六ヶ年住山  
帰国又豊山鳳梧院法印高憧凌雲房上総組万事世話人正組  
者下総州香取組人也天明五乙巳年春豊山第三十一世權  
僧正懷玄江戸築波山護持院權僧正本山エ入院ス天明九  
巳酉年寛政改元年正月二日從權僧正懷玄速ニ留学六ヶ年  
許状頂戴ス天明八戌申天十一月二十六日岩田寺二十八  
世法印尊阿依嚴命朝柄村大慈山光明寺福聚院エ入院ス  
本尊觀音大士不動明王開基不分明寛政元巳酉年九  
月四日師範蒲生山法流七世法印融全詮定房安然坐化ス  
行年六十七歳俗姓切畑村岩波氏

## 東阿法印

岩田寺(松丘)記録

岩田寺第二十六世法印東阿字知周俗姓者笹村宮野源右  
エ門子息同村弥陀山明覚院法印内乳資元文三戌午年十九  
才ニテ初持明院住延享甲元子年二月二十五歳ニテ幸田村  
エ入院ス於此寺護摩壇石○門庫裏建立焉年四十五歳ニ  
テ明和元年申天十一月二十五日岩田寺エ入院ス以来再建  
相金殿堂厨庫門無悉造営之為入佛供養安永八巳亥天九  
月十六日月曜願行流開灌頂壇伝法大会修行ス同年十一月  
二十二日退居而智積院学寮エ登山ス以後野州出流山千手

院往復洛東六波羅密寺住智山為第一座 天明六<sup>丙</sup>午年四月二十五日六十七歳ニテ遷化ス其実事者智積院権僧正胎通伝記欽誌ス近者岩田寺千庭東阿石塚台座彫置候 阿師生涯密法事相尽心根情力諸流御伝授被遊候 岩田寺殿宇再建者中興誠也 遺書ニ曰ク富士浅間大菩薩御本地十一面大悲尊像也故朝暮香華灯明飲食勤行無怠慢様相伝被遊候依之右尊像并堂棟札相改写置申候 当寺第三十一世智禪 岩文政七<sup>甲</sup>申天五月吉祥日

#### 東阿法印

一七二〇年(享保五年)七月笹宮野源右衛門の子息として生まれる。○右衛門と妻との間に子がなく悲み、男子であれば僧侶にしようと思覚院の門前に安置した地藏尊に祈請をかけ幸に男子をもうけた。

明覚院円乳の室に入り真言宗を研究した。

一七三八年(元文三年) 一九才で藤林持明院の住職となる。

一七四四年(延享元年)二月 二五才で広岡幸田村の住職となる(幸田寺在住二〇年)

一七六四年(明和元年)十一月二五日 四五才で岩田寺

へ昇進 第二六世となる(岩田寺在住一五年)

一七七一年(明和八年)九月 明覚院兼務住職

一七七九年(安永八年)九月一六日 石神三宝寺大阿闍

梨智好大和尚を請じ伝法灌頂を行う。

一月二二日岩田寺を退去し智山学寮に登山

一七八〇年(安永九年) 庚子冬出流山満願寺住職

一七八一年(天明元年)八月一日 智積院で傳法大○

を勤修

一七八二年(天明二年)七月一日 笹山神社をして正

一位の社格とする。

一七八三年(天明三年) 明覚院の寺格を色衣格とする。

一七八六年(天明六年)四月二五日 六七才にて遷化

(六波羅密寺に埋葬)